

- 農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP -  
**日本発の畜産物の GAP、「JGAP 畜産物」開発に着手！**

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事：荘林幹太郎）は、「JGAP」において、これまでの青果物、穀物、茶に加え、新たに畜産物に取り組むことといたしました。今後、畜産関係の生産者、流通業者、学識経験者等を中心に技術委員会を組織し、基準書の開発を進めて参ります。

日本 GAP 協会は 2008 年に決定した基本方針において、畜産物についても GAP を開発・運営することを決定していましたが、積み残したままとなっており、日本には現在でも第三者認証の仕組みを持つ畜産物の GAP を運営する団体はありません。しかし、畜産業における食品安全や持続可能性等の取組について、客観的な第三者による認証で証明を行うことによりバイヤーや消費者の信頼を高めたいというニーズは、世界的な動向も踏まえ日本においても高まってきております。

日本 GAP 協会では、先行して取り組んできた青果物・穀物・茶が一定の段階に達したことから、新たに畜産物に取り組む機が熟したと判断いたしました。同時に、輸出の促進が畜産業における重要な課題となっていること等を背景に、畜産物においても GAP の必要性が高まっていることも踏まえ、「JGAP 畜産物」の開発に着手することといたしました。

**<JGAP 畜産物の骨子>**

- 農場運営、食品安全、環境保全、労働安全、人権の尊重に、アニマルウェルフェアを加えた畜産物の総合的な GAP
- 乳用牛、肉用牛、豚、肉用鶏、採卵鶏の 5 種類
- 審査・認証のルール等は、他の JGAP 基準と共通ルールで策定

問合せ先：荻野（おぎの） TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp)

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名	部署名	御名前
住所	電話番号	

## 今後のスケジュール

9月以降、技術委員会を開催し基準書の開発を進め、年末までにはパブリックコメントを実施する予定です。完成後は、3か月程度の準備期間をとった後の運用開始を目指します。

## (参考) 日本 GAP 協会について

「GAP とは、農業生産の環境的、経済的及び社会的な持続性に向けた取組みであり、結果として安全で品質の良い食用及び非食用の農産物をもたらすもの」(FAO の定義)とされ、日本では 2000 年頃から徐々に普及が始まりました。

日本 GAP 協会は、日本の業界標準となり、かつ世界に通用する日本の本格的な第三者認証の GAP を創り普及することを目的として 2006 年より活動してきました。その結果、JGAP 認証農場数は 3,954 (2016 年 3 月末) に達するなど、着実に支持を広げてきております。また、英語版・中国語版・ハングル版の JGAP 基準書の作成や、台湾、香港に事務所を設置し、アジアへの普及にも取り組んでおります (海外の認証農場数は、台湾 1、韓国 6)。

さらに、JGAP の普及を支える指導者の育成も進めており、年間延べ 100 日以上、受講者総数 1,000 人以上となる公認の「JGAP 研修」を全国各地で実施しています。その結果、日本 GAP 協会の資格である JGAP 指導員は、全国で 3,914 名 (2016 年 3 月末) が登録しています。

今年 5 月 31 日には、日本国内の取引に加え、輸出にも対応した日本発の国際規格を目指した新たな基準書である「JGAP 2016」を策定しました。

2008 年の基本方針及び JGAP 2016 は下記リンクに資料があります。

- ・ 日本 GAP 協会 基本方針及び行動目標

[http://jgap.jp/JGAP\\_Assoc/3th\\_riji\\_kihonhoushin081001.pdf](http://jgap.jp/JGAP_Assoc/3th_riji_kihonhoushin081001.pdf)

- ・ 新基準書「JGAP 2016」完成！

[http://jgap.jp/JGAP\\_News/NewsRelease20160531-jgap2016-kansei.pdf](http://jgap.jp/JGAP_News/NewsRelease20160531-jgap2016-kansei.pdf)